

1986

第1回 公認スキーパトロール全国競技大会要項

主催 財団法人 全日本スキー連盟
 主管 財団法人 全日本スキー連盟 傷害防止対策委員会
 後援 岩手県スキー連盟
 協力 岩手山麓国民休暇村, (株)スワロースキー, 美津濃株式会社
 会場 岩手県岩手郡雫石町, 網張スキー場
 本部 岩手山麓国民休暇村本館 ☎0196-93-2211
 期日 昭和61年3月26日(水), 27日(木)
 目的 全国各地において活躍する, スキーパトロールの技術向上と志気の高揚をはかり, 併せて相互の親睦を密にすることを目的とする。
 参加資格 公認スキーパトロール
 チーム 都道府県スキー連盟選抜3チーム以内(1チーム4名)
 開催県は5チームまで可, 単独パトロールチームでも可
 申込方法 昭和61年3月5日必着
 都道府県經由SAJ 傷害防止対策委員会宛
 申込様式は事務局より送付する用紙(コピー可)に限る。
 参加料…1チーム¥3,000を申し込みと同時に納入すること。
 送金方法 銀行名 富士銀行 渋谷支店
 口座番号 普通預金 №501194
 口座名 財団法人 全日本スキー連盟
 各加盟団体とりまとめて送金のこと。
 競技種目 A. スノーボード搬送……強いスキー
 B1. B2 スノーボード操法……巧みな安全操法
 C. ザイル操法……素早い正確な操法
 D. 三角巾包帯法……正確で迅速な手さばき
 携行品 スキー用具一式, ザイル(4~5m)1本, 三角巾(1チーム4~5枚)
 宿泊 宿泊手続きは, 各加盟団体とりまとめて, 別紙(コピー可)に記入のうえ, 郵送で現地へ申し込むこと。宿泊料 1泊2食付……5,500円
 集合 大会役員, 競技会役員は25日14時まで, 選手は26日午前10時までに, 本館ロビー前で受付を済ませること。
 競技内容 別紙参照のこと, 尚細部については監督会議及び選手会に於いて説明する。
 表彰 総合成績10位まで表彰する。

(財)全日本スキー連盟公認スキーパトロール全国競技大会

大会役員

会長 伴 素彦
 副会長 伊藤 義郎, 高橋 敏, 松浦 益司郎,
 大会委員長 滑野 市治
 委員 岡田 興一, 渡辺 才智, 藤沢 隆,
 菅 秀文, 八木 祐四郎, 西原 雅,
 落合 力松, 山田 肆郎, 大竹 清,
 宮沢 一英, 丸山 庄司, 浅井 清治郎,
 松井 貞彦, 深谷 誠三郎, 元木 義夫,
 佐々木 昊, 浅木 文雄, 藤田 勉,
 金井 英一郎, 上坂 徹弥, 谷 道夫

1986

競技会役員

競技役員長 西原 雅
 副競技役員長 深谷 誠三郎, 園山 和男
 技術顧問 大熊 勝朗, 洲崎 参
 競技委員長 宮本 忠五郎
 主 審 園山 和男

(雪上競技)

出発審判 山内 春吉 出発係 阿部 富寿夫
 決勝審判 小島 祐嘉 後藤 昌弘
 計時計算係長 奥田 惇二
 計 時 員 後藤 昌弘
 “ 久永 正利
 “ 内藤 正広
 “ 田中 良橘
 “ 藤原 了弘
 “ 大滝 正彦
 計 算 係 藤村 欣弘
 “ 常陸 川久夫
 “ 古川 久進
 記 録 員 中野 節子
 “ 吉田 節成
 “ 石坂 吉章
 “ 高畑 征一
 “ 高橋 金雄
 “ 佐々木 修
 旗 門 主 任 速水 晶英
 “ 田口 清六
 “ 鈴木 清繁
 “ 田口 班 { 田 幸 一
 “ 鈴木 班 { 藤原 悟
 “ 鈴木 班 { 佐々木 昇
 “ 小林 班 { 岩井 五十八
 “ 小林 班 { 乙部 敏 明
 準備・渉外 阿部 宏希 松田 僑,
 ペナルティ審判 草羽 俊一, 上平 尚,
 高橋 賢一, 坂本 勝良,
 毛利 修三, 安斎 康夫

セ ッ タ ー 林 秀 秋, 速 水 修,
 坂 本 勝 良, 上 平 尚,
 高 橋 賢 一
 セットサポート 石 坂 成

(室内競技)

ザイル操法

審 判 長 草 薊 俊 一
 審 記 員 石 毛 坂 利 本 成
 計 録 員 坂 久 永 正 三(揭示係兼務)
 “ 鈴 木 清 利, 内 藤 正 広,
 “ 田 中 良 橘, 小 林 清 繁,
 誘 導 員 岩 井 五十八

三角巾包帯法

審 判 長 小 島 祐 嘉
 審 記 員 高 山 内 春 一
 計 録 員 速 水 平 修, 安 斎 康 夫,
 “ 上 田 僑 尚, 田 口 晶 英,
 “ 後 藤 昌 弘, 大 滝 弘
 誘 導 員 柿 木 芳 夫, 吉 田 節 子

総 務 矢羽々 弘 三, 柿 木 芳 夫, 吉 田 節 子

1986

第1回 全日本スキー連盟公認
スキーパトロール全国競技大会
総合公式成績表

ゼッケン	チーム名	スノーボード搬送操法		ザイル操法		三角巾包帯法		総合	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	得点	順位
2	山形A	5	4' 14" 7	8	33" 4	4	4' 43" 5	9' 31" 6	1
4	長野B	7	4' 18" 5	11	36" 0	3	4' 42" 3	9' 36" 8	2
12	岐阜A	1	3' 59" 0	4	29" 7	8	5' 11" 6	9' 40" 3	3
10	茨城A	12	4' 43" 6	12	43" 2	1	4' 22" 7	9' 49" 5	4
14	群馬A	3	4' 11" 1	1	19" 9	11	5' 26" 5	9' 57" 5	5
11	長野A	8	4' 30" 4	5	30" 0	10	5' 22" 3	10' 22" 7	6
3	群馬B	13	4' 44" 2	2	28" 95	7	5' 10" 9	10' 24" 05	7
13	宮城A	9	4' 36" 6	6	31" 8	9	5' 16" 7	10' 25" 1	8
5	秋田B	14	5' 04" 4	9	34" 1	6	5' 05" 0	10' 43" 5	9
15	富山A	4	4' 13" 0	14	42" 1	14	5' 54" 55	10' 49" 65	10
17	秋田A	2	3' 59" 4	18	43" 8	19	6' 18" 2	11' 01" 4	11
18	青森A	16	5' 37" 5	3	29" 1	5	4' 56" 8	11' 03" 4	12
19	岩手C	6	4' 15" 6	17	50" 7	18	6' 10" 9	11' 17" 2	13
8	岩手A	10	4' 39" 2	19	48" 9	15	5' 56" 5	11' 24" 6	14
6	北海道A	11	4' 43" 3	13	38" 9	17	6' 09" 8	11' 32" 0	15
7	石川A	15	5' 28" 6	10	35" 4	12	5' 44" 3	11' 48" 3	16
1	岩手B	18	7' 03" 1	7	32" 7	2	4' 41" 8	12' 17" 6	17
9	宮城B	17	6' 21" 9	16	43" 6	16	6' 03" 7	13' 09" 2	18
16	福島A	19	7' 21" 6	15	42" 5	13	5' 47" 9	13' 52" 0	19

昭和61年度 スキー傷害調査報告

全日本スキー連盟傷害防止対策委員会

委員長 西原 雅
副委員長 深谷 誠三郎
調査担当委員 奥田 惇二

昨年はFIPS車山大会が開催され、多忙を極めたにも拘らず、関係各位の御協力により報告書を作製することができた。今年も傷対委員会初めての第一回公認パトロール全国競技大会を開催し、またブロック研修会とB単位講習検定会を並行した日程で消化するなど新しい試みがなされた。

今年の調査も昨年同様2月一杯を調査期間として、現場の関係各位から2,720例についての資料を頂戴した。改めてその労に対し厚く御礼申し上げ、今後の御協力をお願い申し上げます。

FIPS車山大会で発表した内容に、60・61年度分の資料を加えてまとめたのが別稿「日本におけるスキー傷害」である。

今シーズンも12月中は雪不足模様で、年末年始に雪不足で泣かされたスキー場もみられたが、1月に入ると例年通り本格的降雪量となり、搬器もフルに運転に入ったようである。

いつものように傷害発生率を表1に示す。入込総数約516万人で受傷者は2,112人で0.04%と昨年の0.05%より下降傾向を示しており喜ばしいことである。傷害発生率は、スキーヤー2,000人に1人くらいとみてよさそうである。しかし、これはあくまでパトロール扱いの発生率であり、石打丸山の昭和大診療所を訪れたケガ人はパトロール扱いの2.6倍の数字を示しており、これはひとつの参考資料といえよう。

表1. スキー傷害発生率

スキー場	入込人数	傷害発生数	傷害発生率(%)
みやぎ 蔵王七ヶ宿	23,659	16	0.07
〃 えばし	212,500	29	0.01
〃 白石	16,319	6	0.04
野 沢 温 泉	228,800	73	0.03
天 元 台	16,136	10	0.06
む つ	16,300	2	0.01
鶏 頂 山 見 晴	38,454	21	0.05
佐 野 坂 高 原	25,593	19	0.07
朴 の 木 平	92,210	36	0.04
八 方 屋 根	280,000	193	0.07
水 晶 山	13,400	1	0.01
花 輪	12,840	2	0.02
猪 苗 代	95,500	75	0.08
岩 岳	100,000	108	0.11